



# パートナー共済

～わたしの愛をカタチに～

## ほけんの未来を虹色に

### — LGBT 当事者が「お金」と「健康」にあんしんできる社会を目指して

非営利 NGO「パートナー共済」(任意団体)は、《わたしの愛をカタチに》のビジョンのもと、LGBT 当事者が性のあり方に関わらず、生きていく上で必要な相互扶助制度である「生命保険」「損害保険」「共済」などの民間保障を自由に選択でき、あんしんして生活できる社会の実現を目指して活動しています。

「わたしがもしものとき、たいせつな人を守りたい」「迷惑をかけたくない」という想いは、その人の性のあり方とは無関係に等しく尊重され、保険加入というカタチへと結実しなければなりません。性のあり方や『家族』のカタチといったセンシティブな情報を求められることが多い「保険の相談」「加入審査」において、誰も取り残されない、排除されない…それがわたしたちパートナー共済の目指す「LGBT 当事者がお金と健康にあんしんできる社会」です。

このような社会を目指し、わたしたちパートナー共済は、関連団体・NGO・企業・個人とともに活動を展開しています。日々の活動は、《LGBT 当事者が保険の相談をしたいときや保険会社の加入審査を受けるときに「相談しづらい」「入りづらい」と感じるハードルをなくし、ほけんの未来を虹色にしたい》という想いに支えられています。

この「ほけんの未来を虹色に」というミッションにより、わたしたちパートナー共済は、日本にいる約 66 万 8 千人（2016 年総務省統計局経済センサス）すべての保険業に携わる人が、性のあり方や多様な『家族』のカタチに関する正しい認識をもち、すべての LGBT 当事者が不安なく相談・加入できる保険業界を目指します。

わたしたちパートナー共済は本年 5 月、ミッション実現の第一歩として、LGBT 当事者が「入りづらい」と感じるハードルをクリアした業界初で独自の総合保障共済制度をスタートさせました。また、東京・新宿二丁目のセンターを中心とするコミュニティ拠点の運営、イベントやセミナー、メディア出演、調査研究、ロビイングなどを通じて、「LGBT 当事者がお金と健康にあんしんできる社会」の実現を目指しています。わたしたちパートナー共済は、これからも保険業界にあらたな一石を投じ続けてまいります。

2020 年 9 月

パートナー共済 ～わたしの愛をカタチに～

代表理事 小吹 文紀